早生樹コウヨウザン三世代プロジェクト概要

コウヨウザンとは

■中国・台湾原産のヒノキ科の針葉樹
■生長が早く（30年で樹高25m程度）、材質強度はヒノキ程度の早生樹
■切り株から芽が出て萌芽更新で成長（再造林が不要）

（参考）造林経費：地拵え30万円/ha、植栽61万円/ha、下刈75万円/ha

四国森林管理局 コウヨウザン試験地（土佐清水市）

■昭和7年に植栽し、第二世代が成林している国内唯一の試験地
■植栽本数800本、S63年伐採（57年生、76本）。H元年に萌芽更新し（第二世代）H30年に間伐（29年生）
■場所：高知県土佐清水市辛川山（面積0.45ha）

今後の取組

コウヨウザンの育林による施業体系の構築

■ H29年度に間伐、ぼう芽について林木育種センターと調査、研究を開始
■ H30年度に高知県、愛媛県の国有林に外部調達した苗木を植栽し、高知県等と連携して調査を開始
（高知県奈半利町国有林約2,600本、愛媛県宇和島市国有林約200本植栽）
■ 令和2年度に辛川山の第2世代コウヨウザンから採取した種から育成したコンテナ苗を四国森林管理局管内植栽開始

左の株跡から再び萌芽が発生（第三世代）

H30に外部調達した植栽地（愛媛署管内）

第2世代コウヨウザンの種子から育成したコンテナ苗

四万十署管内の国有林に植栽した第2世代コウヨウザンの種子から植栽したコンテナ苗

令和3年度末現在
約15haの国有林に30,450本程度を新植し、成長調査を実施中

これまでの取組

コウヨウザンの苗木生産、育成

■ 土佐清水市試験地で採種した種子をもとにコウヨウザンのコンテナ苗木を生産（平成30年～令和3年度）
■ 芽かきしたぼう芽枝による挿木コンテナ苗の生産（R元年度）

コウヨウザンのコンテナ苗（播種後）

コウヨウザンの種子

第二世代間伐木を集成材に加工しテーブル等を試作（H30年度）

■ 材質・加工性・歩留まりはスギとほぼ同程度。休眠芽の跡がみられる
■ 構造材や集成材も含めた合板や建材としての利用を視野に試験研究中

第二世代コウヨウザンの集成材の天板
（黒い点状に見えるのが休眠芽の跡）

第二世代コウヨウザン製のテーブルと長椅子